

令和4年度 第1回大崎市陸羽東線再構築検討会議 会議録

1 開催日時 令和4年10月20日(木) 午後3時～午後5時10分

2 開催場所 大崎市鳴子総合支所庁舎 1階ホール

3 出席者 下記名簿のとおり

(1) 検討会議

| No. | 役 職 | 氏 名 | 備 考 | 出 欠 | |
|-----|----------|---------|-----|-----|----|
| 1 | 副市長 | 吉 田 祐 幸 | 会長 | ○ | |
| 2 | 副市長 | 尾 松 智 | 副会長 | ○ | |
| 3 | 市民協働推進部長 | 伊 藤 文 子 | 幹事長 | ○ | |
| 4 | 総務部長 | 赤 間 幸 人 | 幹事 | ○ | 代理 |
| 5 | 民生部長 | 洪 谷 勝 | 幹事 | ○ | |
| 6 | 産業経済部長 | 寺 田 洋 一 | 幹事 | ○ | 代理 |
| 7 | 建設部長 | 茂 泉 善 明 | 幹事 | ○ | |
| 8 | 教育部長 | 宮 川 亨 | 幹事 | ○ | 代理 |
| 9 | 病院経営管理部長 | 中 田 健 一 | 幹事 | ○ | |
| 10 | 岩出山総合支所長 | 安 藤 豊 | 幹事 | ○ | |
| 11 | 鳴子総合支所長 | 伊 藤 正 幸 | 幹事 | ○ | |

(2) オブザーバー

| No. | 役 職 | 氏 名 | 出 欠 | |
|-----|---------------------------|---------|-----|----|
| 1 | 東北運輸局鉄道部計画課長 | 岩 淵 正 宏 | ○ | |
| 2 | 東北運輸局観光部観光企画課長 | 長 内 誠 | ○ | |
| 3 | 東北運輸局交通政策部交通企画課長 | 小 林 拓 也 | ○ | |
| 4 | 宮城県経済商工観光部参事兼観光政策課長 | 柳 澤 宏 | ○ | 代理 |
| 5 | 宮城県企画部地域交通政策課長 | 大 石 雅 邦 | ○ | |
| 6 | 東日本旅客鉄道株式会社東北本部総務部企画室企画課長 | 箸 方 稔 | ○ | |
| 7 | 一般社団法人みやぎ大崎観光公社常務理事兼事務局長 | 星 義 一 | ○ | |
| 8 | 鳴子温泉郷観光協会事務局長 | 菊 地 英 文 | ○ | |

4 事務局 市民協働推進部まちづくり推進課課長 中鉢豊, 同補佐 三澤香苗,
同主幹兼係長 千田貴憲, 同主事 佐々木弥祐
市民協働推進部政策課課長 高橋直樹
産業経済部観光交流課課長 今野富美

5 説 明

- (1) 大崎市陸羽東線再構築検討会議について
- (2) アンケート調査結果について

6 情報交換

- (1) 地方鉄道をめぐる動向について
- (2) 意見交換

7 その他

8 会議資料

- 資料1 : 大崎市陸羽東線再構築検討会議について
- 資料2-1 : JR陸羽東線の利活用促進にかかる職員アンケート調査結果
- 資料2-2 : 塚目駅利用者アンケート調査結果
- 資料3 : 地域鉄道・ローカル線を巡る最近の動向
- 資料4 : 宮城県地域交通プラン【概要版】
- 資料5-1 : JR東日本ニュース（利用の少ない線区の経営状況）
- 資料5-2 : 陸羽東線利用状況

9 会議の概要（要点筆記）

1 開 会

- ・事務局が会議を進行。

2 挨拶

- ・伊藤大崎市長

構成メンバーの方々、オブザーバーとしてご出席いただいた東北運輸局、宮城県、JR東日本、観光団体の方々、本日はお忙しい中ご出席いただき厚くお礼申し上げます。また、報道関係の方々には、この問題に関心をよせて報道いただいていることに敬意を表させていただきます。

今年は、日本に鉄道が開業して150年という大きな節目を迎えています。1872年（明治5年）10月14日に鉄道が開業し、先日も150年のいろいろな記念の催し物がございました。鉄道はまさに日本近代化の象徴であり、地方の発展の牽引役として物や人を動かすことだけでなく、人々の夢や希望を乗せて走り続けた150年でもあります。

大崎市は鉄道と大変関わりがあります。東北本線、今日のテーマである陸羽東線、さらに東北新幹線がございました。東北本線が大崎に初めて走りましたのは1890年（明治23年）4月16日、陸羽東線は1913年（大正2年）小牛田・岩出山間、その2年後に新庄まで全線開通しております。東北新幹線は、1982年（昭和57年）に開通し新古川駅ができました。地域に大きく貢献してきた鉄道が、150年という大きな節目を迎えた中で存亡危機に直面しています。

この夏、国は「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」から受けた地方鉄道の再構築に向けた提言を公表しました。

また、JR東日本がローカル線の経営状況を初めて開示し、その中で私たちが大切にしている陸羽東線が赤字路線として公表されました。大崎市そして地域の皆様方にとりましても大変な衝撃を受けたところでございます。

陸羽東線は今年で開業109年を迎えます。1913年（大正2年）から市民生活

を支える地域の公共交通機関として無くてはならないものであり、市民の通学・通勤・買い物いろいろな面で市民生活を支えていただいております。また、温泉番付で東の横綱に認定され鳴子温泉郷に誘客する観光路線として、世界農業遺産の大崎耕土を走るまさに日本の原風景を彷彿させる素晴らしい農村景観を走る列車として、これまでもリゾート列車みのり号やSL運行、現在はトランススイート四季島が運行されておりますが、四季島の受け入れ運営協議会を立ち上げて、官民一体で本市を訪れる方々をお出迎えしているところでもあります。さらに、東北本線・東北新幹線・山形新幹線を繋ぐ周遊路線となる重要な役割を担い、道路や空路同様に大切なインフラであります。

この大崎の方々は鉄道の開発ということで古川馬車鉄道、松山の人車軌道、西古川の軽便鉄道など、鉄道に大変心血を注いできた歴史がありますので、利用するだけでなく多くの方々をお迎えする受け入れ態勢も作られてきました。そのような中で来年度から一日の利用者が1,000人未満の路線を対象に協議会を設置し、3年以内に存続の可否を判断するという方針が示されましたので、9月に補正予算を編成し独自に陸羽東線の利活用促進に向けた検討を進めていきたいということで、本日の再構築会議を設置したところでもあります。

この会議は陸羽東線の存続を前提とし、陸羽東線の魅力発信や維持存続に向けた経営の安定化について、市民や関係団体と問題意識を共有して利活用促進策を検討し、年度内に一定の方向性をまとめ、来年度から始まる関係機関との協議に向けて大崎市の考えを取りまとめしていきたいと考えております。改めて鉄道の150年を振り返りながら、次なる100年に向けて、この陸羽東線が引き続きこの地域にとって無くてはならない、未来に向けての方針をぜひ打ち出してまいりたい。そのためには多くの方々に陸羽東線に関心を持っていただき、利用していただく。乗りやすい、魅力ある鉄道をつくっていくことが大前提であります。この会議と並行し市民の方々、関係団体の方々と問題意識を共有するにあたって、陸羽東線沿線の古川、岩出山、鳴子温泉の旧市町単位で市民団体、商工観光団体、通学で利用する生徒が通う学校のPTAの方々等で構成する地域懇談会を開催し、住民目線で様々なアイデアや意見をいただきたいと考えております。

これらの想いを10月号の市広報のコラムに「陸羽東線が危うい」という形で掲載したところ、市民の方から多くの反響をいただいております。「陸羽東線を存続するために利用する」、「いろんな形で議論に参加していきたい」、「地域懇談会に参加したい」というお話をいただいております。

お忙しい中ご出席いただきましたメンバーの皆さん、オブザーバーとしてご出席いただき、専門的な立場から情報提供やご指導をいただく関係機関の方々に感謝を申し上げます。開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3 出席者紹介

- ・名簿に基づき事務局より紹介。

4 説明

(1) 大崎市陸羽東線再構築検討会議について

- ・資料1に基づき事務局より説明を行った。

(2) アンケート調査結果について

- ・資料2-1, 2-2に基づき事務局より説明を行った。

5 情報交換

(1) 地方鉄道をめぐる動向について

- ・資料3に基づき東北運輸局より説明を行った。

○小林 東北運輸局交通政策部交通企画課長より補足説明

資料3の6ページにスキーム図が示されているが、いずれにせよまずは地域主体で地域のモビリティのあり方を見直していくことが原則である。最近、大崎市でも地域公共交通活性化再生法に基づく地域公共交通計画を策定しているが、大崎市に限らずバス・乗合いタクシー・デマンド交通等が計画の主眼となって書かれていることが非常に多く、鉄道は所与のものとして扱われることが多い。今回の有識者会議での提言も踏まえて、鉄道も含めた地域の公共交通ネットワークをどのように維持し、利活用を促進していくか、地域公共交通計画の中に反映していけると良い。具体的な事業については地域公共交通特定事業というスキームが地域公共交通活性化再生法にあるので、必要に応じて、そこで具体的なアクションに踏み込めれば良いと考えている。

○吉田会長

6ページの再構築にかかる各々の手続きについて、再構築に向けた期間の目安を想定しているのか。

○岩淵 東北運輸局鉄道部計画課長

有識者の提言内容については、現在、具体的な制度設計を本省で行っている。今後、所要の法改正や予算措置の話が年末位に出ると思われる。現状、具体的な話ができる段階にない。

- ・資料4に基づき宮城県より説明を行った。

○柳澤 県観光政策課長（代理：乗田 県経済商工観光部副参事）より補足説明

人口減少社会を補うために、観光客などの交流人口を拡大するという考えがある。地域経済の活性化に繋がっていく重要なこと。単に観光客が増えれば良いというものではなく、地域経済が活性化するようお金を落としてもらえような状態にしていかなければいけない。そのためには宮城県を訪れる観光客の方にできるだけ長く滞在していただき、県内の広い範囲を周遊してもらいたい。観光客のニーズは多様化しており、そのニーズにできるだけ対応していければと思う。その中で鉄道や二次交通を含む観光機能を強化充実させることが、観光客の受け入れや環境整備する上で重要であると捉えている。県で作成している「みやぎ観光戦略プラン」中にも、そのような内容を記載している。この会議を通して、地域交通の在り方を勉強させていただきたい。

- ・資料5-1, 5-2に基づきJR東日本東北本部より説明を行った。

○吉田会長

コロナ禍以前からの課題がコロナでより顕在化し、今後、回復しないのではないかという懸念、そして現状を理解いただき、建設的な議論につなげたいという考え方で

よろしいか。

○箸方 JR東日本東北本部企画課長

今のお話のとおり、数字データを見て現状認識していただき、そのうえで鉄道としての特性を活かしきれていない現状をどう回復していくかということである。我々としては、設備のスリム化や運行形態の簡素化など経費削減や効率化策を進めながら、持続的な路線にできるかがポイントだと考えている。

(2) 意見交換

○吉田会長

それでは、検討会議の幹事からご意見や具体の利活用促進策等について発言いただき、その後、オブザーバーとして参加いただいた方々からも一言お願いしたい。

○伊藤市民協働推進部長

本日の説明と資料を見て、改めて鉄道は地域の財産であるということを確認した。大崎市は今年度にSDGs未来都市の認定を受け、持続可能なまちづくり、環境負荷軽減やCO2の排出削減に向けた取り組みを進めることとしており、その中で鉄道の果たす役割は大きいと思われる。今回の検証結果を大事にしながら利活用促進に向けた取り組みを進めていきたい。

また、今後の取り組みを進めるうえで、路線ごとの平均通過人員等の目標値を定めながら進めていくことになると思うので、JR東日本さんには、目標値の目安や基となるデータ提供をお願いしたい。

○赤間総務部長（代理：坪谷総務部参事）

今日は現状を知ることだったので情報提供させていただきたい。先程の事務局説明の中で、陸羽東線の利活用アンケートの結果、675名の正職員に対して鉄道利用者が3名ということだった。人事担当で把握している数値を紹介すると、実際に陸羽東線を利用している正職員は2名、会計年度任用職員で5名の合計7名。さらに、自家用車以外で通勤する場合、何を利用するかという問いに対し、陸羽東線の利用可能と答えた職員が158名。会計年度任用職員を加えれば、おそらく250名から300名程度の利用者が見込まれる。石巻市で既に実施しているが、「公共交通を利用する日」を実証実験でやってみてはどうか。マイカー規制によるエコな取り組みにも連動するものである。現状で地域住民への呼びかけは難しいので、市職員が積極的に陸羽東線を利用し、実証実験をやっていくべきだと思う。

観光面については、個人的に鳴子温泉駅の待合室が気に入っている。ひな壇の形になっている待合室に座布団を敷いて、とても温かみのある場所である。このようなドラマのワンシーンのような雰囲気大切にしたい。

○渋谷民生部長

民生担当として、高齢者や障がい者目線で考えると、現状、古川駅はバリアフリーでエレベーター等の設備を兼ね備えているが、途中の岩出山駅はプラットホームまでの間に連絡橋（階段）があり、車椅子や足腰の弱っている方には使いづらい。介護者や介助者も必要な状況である。連絡橋の無い駅の方が乗りやすい場合がある。視点を変えるこ

とで利用が増えるのではないか。

市内の駅の中でも鳴子温泉駅はバリアフリーの仕組みが必要だと思う。例えば平面交差で渡れるような仕組みになれば、プラットホームに行きやすい。また、そのような利用形態が出来れば、貨物などの積み下ろしが楽になるし、活用の幅も広がるのではないか。

○寺田産業経済部長（代理：安部産業振興局長）

東北運輸局の岩淵課長から取り組みのポイントということで、活かす発想が大事とあったが、まさに鉄道を活かし切っていくことを考えなければいけない。観光という視点で鉄道を活かしていくこと、その中で頑張る地域を支援するとあるので、こういう機会にしっかり地域や関係機関が考え、魅力ある観光地を作っていかなければいけない。

陸羽東線は、世界農業遺産に認定された田園地帯の中心を走る、国内でも大変珍しい路線であり、田植え後の水の張った田んぼの中や、稲刈り時の黄金色の中、雪の真っ白な風景の中、其々の四季を通じた日頃感じることができない東北の旅を感じることができる。

電車や駅はこれまで当たり前のもので思っていたが、もしかしたら無くなってしまいかも皆さんが考えていると思うので、改めてその価値を考えていかなければいけない。東京駅から鳴子温泉は東北新幹線と陸羽東線を使えば約3時間であり、これは大きなメリットである。そういう恵まれた特性を活かす視点が必要だと思う。現在、鳴子温泉郷全域で観光庁の高付加価値事業にも取り組んでいる。これについては鳴子温泉郷の再生という意味でも市も県も上乘せ等の支援を行い、更なる魅力あるところになりたいと頑張っている。宮城県唯一の国民保養温泉地の更なる魅力アップ、その中で鉄道の旅も更なる魅力を出せるように地域や関係機関で考え頑張っていければと思う。

○茂泉建設部長

建設部内でもどういったことが考えられるか話し合った。BRTのようなものを使って目的地により近いところに周れるような交通体系を作れないかという話が出た。県内、仙台中心部を除けば車がなければ生活できないような地域なので、車の台数が増えることで鉄道の利用も減ってきた現実がある。その一方でゼロカーボンやSDGsの考え方の中では、鉄道の大量輸送機関を使った移動も併せて考えていかなければいけない。塚目駅のアンケートにもあったが、「他に移動手段がないから」と回答した人が一定数いることに目を向け、その人たちのためにも、どういった形で残していくかといった議論を進めていく必要がある。駅のバリアフリーに関する話もあったが、塚目駅については駐輪場が使いづらいとかトイレが汲み取り式であるといった意見をいただいている。使いやすい駅や鉄道の在り方について、ご意見をいただきたい。

○宮川教育部長（代理：佐藤教育部鳴子支所長）

現在、国指定文化財で岩出山の有備館へのアクセスに、有備館駅を利用させていただいている。また、出羽仙台街道中山越、いわゆる松尾芭蕉が辿った奥の細道の散策道のアクセスとして中山平温泉駅を利用いただいている。県内外から陸羽東線を利用してお越しいただいていることから、存続の必要性を感じている。

さらに、鳴子温泉駅を起点とする宮城オルレの大崎鳴子温泉コースの共有する部分となっており、産業経済部と連携しながら利活用促進に向けた取り組みを推進してい

きたい。

○中田病院経営管理部長

塚目駅の利用者アンケートの中で、通院で利用している方が3名いた。塚目駅を使い通院ということは大崎市民病院への通院と考えられる。個人的には3名もいたのかという感じで、塚目駅で降りて市民病院へ歩いて来院するのは難しいと思っている。市民病院の駐車場が満車で駐車できないというクレームが出ているので、その対策も考えなければいけないことから、塚目駅と市民病院と古川駅を結ぶバス路線やデマンドがあれば、利用者数が増えてくるのではないかと。

コロナ対策で市民病院もお見舞いを制限しているが、患者さんだけでなく、お見舞いで来院する方に合わせて塚目駅と市民病院を結べればよい。

確認ですが、先程1,000人を超えるか超えないかで再構築の対象路線になるというような説明があったが、それは陸羽東線の小牛田駅から新庄までという考えなのか、それとも区間ごとの人員なのか確認したい。

○安藤岩出山総合支所長

改めてご説明いただき厳しい現状を認識した。旧岩出山町時代には駅名変更や陸羽東線の各種活性化策に取り組んだ思い出がある。有備館駅ができ、岩出山駅の方が近いのに、わざわざ有備館駅へ送ってもらい乗車するということがあった。階段を5段登ればホームなので、高齢者の方々が利用するためには、西古川駅、岩出山駅、鳴子温泉駅の連絡橋を渡るという環境が変われば、また違ってくるのではないかと。岩出山地域は、今後、地域懇談会が開催される。年齢の高い、鉄道への思い入れの強い方々と、今のマイカー世代の方々では、大分意見も変わってくると思うが、鉄道の有利性などを含めながら、陸羽東線の存続や利活用に向けて関わっていききたい。

○伊藤鳴子総合支所長

高校に通っている当時、2番列車が8両編成の長い列車で、東大崎駅ではホームからはみ出した列車で、車が通れなくなっていたことを思い出した。

利活用促進については、ラッピング列車やSL運行など観光面で色々な手段があると思う。移動手段だけではなく、乗ることが目的となるような方策を検討し、さらに市内の色々なスポットを繋げるような形になればいいのではないかと。

○尾松副市長

今は危機感を持っている状況なので注目されているが、将来のことを考えて持続可能な形で検討を進めていくべきである。ライフスタイルに合わせた形にしていかなければ持続しないので、そういったことを含めて考えていければと思う。

○星 みやぎ大崎観光公社常務理事兼事務局長

東北運輸局の資料で、昭和62年にJRに変わり、その当時の輸送密度2,000人未満の路線の割合が16%、令和2年が38%。国鉄からJRに変わる時に、ある程度の採算性が提示されたものの、35年の間に地方鉄道の現状が炙り出された認識で良いかと思う。

2008年から2011年に古川駅に勤務していたが、2011年に震災があり、新

幹線が復旧した時、花束を持ってきてくれた人がいた。やはり地方における鉄道は自分達の身近な生活の中にある。公共性を維持しながら持続可能な鉄道を目指すことが大切なので、色んな議論をしていければと思う。

○菊地 鳴子温泉郷観光協会事務局長

鳴子温泉駅の中にある観光案内所で、鉄道で来る方の顔を一番に拝見している。観光協会としては当然存続を望んでいる。観光協会の立場からの話になるが、鳴子温泉郷をはじめ沿線の観光地を支えてきた路線であると思っている。しかし、懐かしさや鉄道ファンの想いだけでの存続が難しいこと。ノスタルジーだけではどうにもならないことは皆さんも理解していると思う。国道と鉄道が並行して走る路線なので、場合によってはバスなどのきめ細かい運行の方が、この地域に対応できるのではないかという議論は当然出てくると思われる。

陸羽東線には、地域住民の交通機関としての役割に加え、我々、観光業を支えていただいている大きな役割もある。古川と新庄には全国でも珍しく沿線の両側に新幹線の駅がある路線であり、駅名に温泉が付く駅がいくつもある。大崎平野に広がる農業遺産の田園風景と、山形側には有名な銀山温泉の入口にもなっており、まさに湯けむりラインと言われる所以である。高度成長期に加速したモータリゼーションの進展は、当時から陸羽東線に影響を与えていたと思うが、観光客もいたことから、高景気の影に隠れて我々には見えていなかった。しかし、バブルが崩壊すると乗車人数も急激に激減し右肩下がりの現状にある。鉄道は前からそこにあるものという思いから、水が茹でられるように、気が付かないうちに熱くなっていた感じで、今、色んな数字を見て皆さんが驚いている。一步も二歩も踏み込んだ連携をもっと早くしなければいけなかったと思っている。

平成13年から始めた「下駄も鳴子」という企画や「リゾート列車みのり」、「SL風と湯けむり号」等特別列車の運行や、デスティネーションキャンペーンでは多くのお客様に列車を利用していただいた。本日停車した「四季島」はその集大成と思っている。コロナ前の紅葉シーズンは、インバウンドのお客様を含めて、立って乗車する日が連日続き、バスでは代替できない程の来客があった。陸羽東線にはまだ伸び代があり、言い換えればまだ何もしていない状況に近いと思っている。あらゆる手を打った後の数字ではないので、やることがまだまだある。存続するために何をするかという議論ではなく、陸羽東線は沿線の交流人口を大きく伸ばす強力な武器であり、柱になると思っている。使いづらい、階段が多い、バリアフリーでないという話があったが、大人の休日倶楽部やジパング倶楽部の会員が100万人以上いる中で、来たくても来ることができない状況を解消しなければいけない。特に大事なものは二次交通。高齢者の方が乗ってきて、鳴子峡や鳴子ダムに行きたいとなった時に、タクシーが5台だと厳しい。鳴子からバスで病院に行こうとすると2時間以上かかる。パッケージで商品開発を含めた持続可能な総合的な投資戦略をもって取り組むことが非常に重要である。鳴子を大崎市の温泉付きベッドタウンのようにして、その交通手段としてJRプラス二次交通という考え方、市民のためにお金を遣うことで観光業界にも直結するという思いもあるので、そういう視点に立つとより投資しやすくなるのではないかと。

○長内 東北運輸局観光部観光企画課長

鉄道には生活交通の他に観光に絡めた利活用の方法があるということをご承知であ

り、今後とも鉄道を利用した旅行商品の造成や、鉄道と観光施設がタイアップした企画を考えて行くことと思う。観光部としても支援やアドバイスという形で手伝えると思う。その時に考えていただきたいのは、しっかりとしたデータに基づいた施策が効果的であるということ。どの年齢層の方がどこから何を目的として来ているのか。温泉郷のホームページをポータル構築しており、そこから旅館へとアクセスする形になっているが、例えばそこから全ての旅館の予約ができるようにすると、顧客のデータがそこに集まり、それを皆で共有して色々なことが考えられる。トレンドデータも蓄積され、変化も把握できるので、アンケートをこまめにとっているよりは受動的にデータが取れ効率的である。東北運輸局としても観光業界におけるDXが重要と考えているので、そういった形のデータ収集をこれから考えていただければと思う。

○柳澤 県観光政策課長（代理：乗田 県経済商工観光部副参事）

お年寄りの方だけでなく、最近は若者や私と同年代の女性は車や免許を持たない人が多く、車を使わずに行ける場所を探している。そういった方にとって、陸羽東線が魅力的な駅を巡るようなイベントを山形の市町村と手を組んで考えていければと思う。

○箸方 JR東日本東北本部企画課長

ぜひ鉄道の利用を増やし、鉄道の環境にやさしいというところに繋がればよい。伊藤部長から話のあったデータについては、我々も出せるものは出していきたい。沿線各エリアの人口の推移、道路や自動車関係のデータ等も併せてみながら相談し協力して進められればと思う。先程1,000人についての確認があったが、その部分につきましては、東北運輸局から説明いただきたい。

○岩淵東北運輸局鉄道部計画課長

運輸局の資料の5ページ、下段の①に記載のある「輸送密度が1000人未満」のワードがひとり歩きしている。国の協議会というのは再構築の必要性があるということと、広域的調整の必要性があること。鉄道事業者又は自治体からの要請に基づき、これを総合的に勘案し、国の協議会立ち上げという提言になっている。それ以前に、基本的には国は、地元の方々のサポートをするという流れになっている。陸羽東線は少し頑張れば数字が改善できるのではないかと、鳴子温泉もあるし、そういった観光特性があるので活性化も優先重要事項としてやっていただければと考えている。

6 その他

- ・事務局から次回（第2回）の会議日時について案内
日時：令和4年12月26日（月） 午前10時から
場所：大崎市地域交流センター

7 閉会

- ・尾松副会長の挨拶で閉会

以上